

## 「私たちのところに来てくださったイエス・キリスト」 牧師 野村<sup>たかみち</sup>天路



はじめまして、生田丘の上キリスト教会の野村天路（たかみち）と申します。キリスト教について、また私たちの教会について知っていただきたいと思い、「丘の上だより」をお届けします。このお便りでキリスト教や教会について関心を持っていただけるととてもうれしく思います。

キリスト教の中心は、イエス・キリストというお方です。聖書の中には、イエス・キリストについて次のように書かれています。

「キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。」ピリピ2章6～8節

この聖書の言葉は、イエス・キリストが、人を高いところから見下ろしている神ではなく、私たちと同じところに降りて来てくださり、私たち以上に身を低くしてくださった神であるということを教えています。実際、イエスは、神であるお方なのに、王や貴族などの特別な家庭ではなく、ごく普通の貧しい家庭に生まれ、大工として働きました。30歳から公の活動を行い、病の人を癒やし、友なき人の友となりました。そして、最終的には、私たち人間の罪の身代わりとなるために十字架にかかり死なれ、三日目によみがえられました。神であるお方が、私たちと同じように、いや、私たちよりも身を低くし、最終的には私たちのために十字架で死なれたのです。これは、本当に驚くべきことですので、すぐには信じられないかもしれません。しかし、聖書を通してイエス・キリストがどのようなお方なのかを知っていくとき、このことが真実であるということがわかってきます。

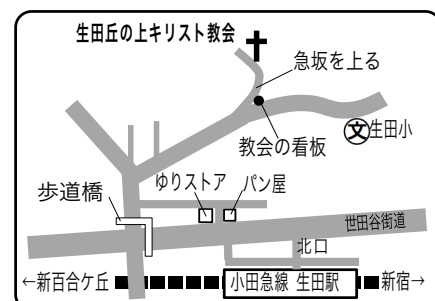
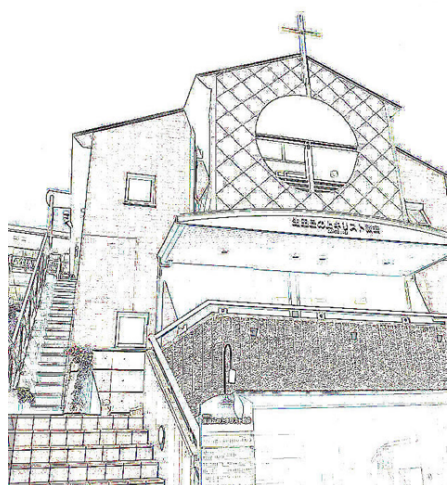
私たちには、心のどこかで、自分と同じ立場に立って、自分のことを心から理解してくれる存在を求めているところがあるのではないでしょう

か。自分のことを誰も理解してくれていない

と思うとき、私たちは孤独や不安の思いが強くなります。逆に少数でも、いや、たった一人でも自分のことを深く理解してくれている人がいると私たちは勇気づけられます。

イエス・キリストこそ、そのようなお方です。イエス・キリストは、私たちと同じところに降りてきてくださり、最終的には、私たちを罪から救うために、十字架で死なれました。私を救うために、ここまでしてくださったお方がいるということを知っていくとき、人は本当に変えられていきます。

イエス・キリストを信じる人の人生や考え方については、さらにこの「丘の上だより」に書かれています。ぜひ、お読みいただいて、イエス・キリストを知りたいと求めていると願っています。また、ぜひ、教会にもお越しください。



生田駅から徒歩8分

# 信仰の体験談



コロナ禍で思うこと (70代 女性)

今まで経験したことのない感染症が、世界中の人々を恐れと不安の中に陥れています。マスクをし、三密を避けて注意深く生活していても、感染の有無もわからず、完全に感染は防げないこのコロナにふりまわされ、誰もがストレスの中での生活圏の狭い日常を送っています。

もうすぐ80歳になろうとする私に、この状況の中、去年の秋に不思議なたちで「癌」、それも希少癌であることが判明しました。ステージ3のCで、治療法もないステージ4の手前でした。その時私は、「これで死ぬんだな」と覚悟をしました。キリスト者は、死ぬことは神の元に召されることであり、希望であること、「生きることはキリスト、死ぬことも益です」と聖書から教えられ、信じています。人間は誰でも肉体は、生まれて死ぬのです。

検査、検査で引っ張りまわされ、結局抗がん剤の点滴治療が始まりま

した。私は、時々多少の問題はあっても今まで元気で生活できたことを心から感謝しました。ですから、ここで肉体の命がおしまいになっても現実を受け入れたいと心に決めました。なぜなら、創造主であり、支配者である神が、私にいのちを与え、命を取られるのも最善な時であると信じているからです。ただ耐えられない苦しみや痛みは、私にとっても一番恐れていることです。どんなことがあっても、神に信頼したいと祈ります。

病気になったことで、ようやく弱い方々や病気の方々の思いを少しでも知ることができたのは、私にとって必要なことでした。抗がん剤の副作用も多少あり、このコロナ禍で不自由さを覚えています。また、誰もがこの感染症を、何故？何時まで？と心を痛めているでしょう。しかし私たち一人ひとりを愛してくださっている神が意味のないことはなさいません。聖書には「あれもこれも神のなさること、順境の時は喜び、逆境の時は反省せよ」とあります。

私たちの罪のために十字架にかかり、死んでくださったイエス・キリストの故にゆるされ、愛されているものとして、すべてを神に信頼して、この時を耐え、主なる神に委ねたいと願っています。



望むと見えるもの (50代 女性)

約25年前、引っ越したばかりの我が家のポストに、生田丘の上キリスト教会の「丘の上だより」が入っていました。キリスト教の一貫校で聖書に親しんできたこともあり、娘もそのような環境の中で育って欲しいという漠然とした思いを抱いていました。当時新たな地での2歳の娘の子育てへの不安もあり、教育、友達作りを求めていたので、書かれていた教会主催の子育てに関する講演会に惹かれて、思い切って参加すべく、娘の手を引き教会への急な坂道を登って行きました。それがきっかけとなり、牧師と聖書を学び、礼拝に出席するようになり、次第に子供のためという思いが、実はそれだけではなく自分自身の渴望でもあったと気づか

毎月第3土曜日 14:00～15:00

今年度は感染症の影響で  
11月、12月、3月開催予定

小学生対象

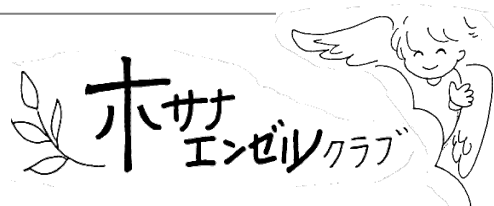


わかりやすい聖書のお話と賛美に加え、

十分な感染対策のもと、工作やゲームなど毎回楽しい企画を用意しています。

(感染対策については教会のホームページをご参照ください)

保護者の方もご一緒に見学していただけますので、お気軽にご参加ください。



毎月第1・3火曜日

10:30～12:00

0才から未就園児とお母さんのための集いです。聖書のお話と賛美歌、おやつなど。

見学も大歓迎です。参加ご希望の方は、教会にお問い合わせください。

されました。そして神様を信じて受け入れ、今に至っています。

それまであまり気に留めてきませんでしたが、さかのぼれば曾祖母がクリスチャンでした。その影響を受けて育った祖母の口ずさむ讃美歌を聞きながら育った母は、教会の聖書研究会へ参加、そして娘たちをキリスト教の学校へ。この経緯は私にとって影響を受けた大きな要因です。

この6月、その母との別れの時を迎えました。クリスチャンは、この世限りではないその後の歩みがあることを知っています。私は病気が悪化する母にも、主イエス・キリストを信じ受け入れて救われ、最期の時も心を平安に希望を持って過ごして欲しい、そして天のみ国の神様のもとでまた再会できたらと心から願いました。いよいよ病状が激しくなる中、まるで雲の切れ目の晴れ間のように母の意識がはっきりし、信仰の告白に導かれました。そして数日後、安心してのように主のみもとに旅立ちました。

あれだけ恐ろしかった母との別れを、希望を備えた幸福感を伴うほどのものに変えていただいた瞬間、自分があの1枚の「丘の上だより」に導かれ、教会に行き、神様の救いにあずかることが出来た大きな恵みに、あらためて感謝しました。人知を遥かに超えた神様の、私たち一人一人に対するご計画は決して偶然ではなく、母の胎に宿るずっと前から全てをご存じで、私たちが主のもとに帰って来るのを待っておられるのだと確信

出来た時でした。

どうか、この「丘の上だより」も読まれた方にとっての特別な1枚となりますように。



### コロナ禍の一年を振り返って

(40代 男性)

私は埼玉県のある老人ホームで働いています。コロナ禍が始まる前の年に起こった台風19号によって、勤めていた施設が大きな被害を受けました。水害のあった夜、私は夜勤の一人としてその場にいて多くの方々の尽力により救出されました。あの台風によっては入所者、職員が一人も命を失うことがなかったこと、ただ神様に守られたと今も信じています。

水害後、入所者は他施設で過ごされて、半年後に設置された仮設福祉住宅に移って生活ができるようになりました。今は、新しい施設が建設されるのを待ちながら仮設の施設で勤めています。本当に多くの方々の努力と支援があったことを、施設の工事が進んでいる様子を見て思います。

現在のコロナ禍中では、多くの病院や施設のように、外部との面会を制限し、職員は定期的なPCR検査を受けて、密をできるだけ避けるようにしています。私は大きく変わった自分の環境に加えて、世の中がコロナによってこれ程までに変わるとは思いもしませんでした。そしてもし水害が、コロナが流行している昨年から現在の中で起きたとしたら、どうなっていたのだろうかと考えて

しまいます。

水害直後には多くのボランティアの方々が来て、片づけを手伝ってくださいました。また、再建するためには、いろいろなところに働きかけていかなければなりませんでした。今日のように、人の動きに大きな制限がある中では、多くの支援活動は進まなかったのではないかと思います。人には計り知れない、時というものについて思わずにはられません。

神は、すべてを支配されている方だと聖書に記されています。神の摂理というものを思いながら今のこの時を過ごしています。

### 定期集会の予定

礼拝は毎週日曜日に行われています。皆様のお出でを心からお待ちしております。

礼拝・日曜日 11:00~12:10

教会学校・日曜日 10:00~10:40

祈禱会・水曜日 19:30~21:00

### クリスマスのお知らせ

礼拝 12月19日(日)  
11:00~12:10

イブ礼拝 12月24日(金)  
19:30~20:30

### 感染症予防の取り組み

- ◆ 常時換気を行い、収容人数を50%にし、席の間隔をあけて礼拝を行っています。
- ◆ 検温、手指消毒、マスク着用にご協力をお願いいたします。
- ◆ 感染状況により集会などの予定が変更になる場合はホームページでお知らせします。





## 神様との出会い (30代 男性)

初めて教会の礼拝に足を運んだときから、現在までを振り返って、まず思うのは「クリスチャンでない家庭で育ってきたにも関わらず、キリスト教に関心を抱き、イエス様の救いを知ること、幸いにも受洗して救われた自分は幸運なのかもしれない」というものでした。ただ、そこでふと気付いたのが「この巡り合わせは単なる運なのか? いやいや、運ではないだろう」というものでした。

少し大げさな表現な気もしますが、今思えば、(当時の自覚は抜きにして)、利己的な欲望(ワガママ、身勝手など)から発した、物事の判断や行動を起こすことによって、他者を傷付けることは勿論のこと、他者に対する自分の振舞いに対し、辟易としていました。だからこそ、「大丈夫! あなたの苦しみやもがいている様子は分かっているし、それらから解放しましょう」といつてくれる何らかの救いを求めています。

そういう心情を抱えている中、たまたま目にした教会広告(チラシ)を見て、教会に足を運び、聖書を読んだり、礼拝でのメッセージを聞いたりすることを通して、自分は神様に愛されているんだとか、神様が常に寄り添っているというような実感が湧くとともに、むしろ、苦しんでいたからこそ、神様が必然的に手を差し伸べてくれたのだということに気付

くことができました。

実際の信仰に導かれる過程においては、0 が 100 に一瞬で変わるというのではなく、結果的には 5 年近くの歳月がかかりました。粘り強く、導いてくださった神様との出会いに感謝しています。

とはいえ、しょせん人間なので、今でも利己的な考えや行動をとってしまふことがあります。でも、そのようなときは、神様に祈り、救いを求めるといったことを日々繰り返しています。このような神様とのやり取りは今後も続いていくことと思われま

## チャペルコンサートのご案内

ソプラノと古楽器テオルボによる  
**バロック時代の教会音楽**  
また、聖書の話

**11月27日(土)より**  
**無料ネット配信**



ikutaokanoue.com

### 演奏者プロフィール

**佐藤裕希恵** Yukie SATO ソプラノ

東京芸術大学声楽科卒業、同大学院古楽科修士課程修了。2011 年よりスイス、バーゼルのスコラ・カントルム修士課程で学び、更なる知見を深める。ポーランドや山梨での国際古楽コンクール優勝を始め数多く受賞。バロック・オペラのほか、ソリストとしてヘンデル『メサイア』、J.S. バッハ『ヨハネ受難曲』などに出演し、世界屈指の古楽演奏家、アンサンブルと数多く共演。国内外で高い評価を得る。現在桜美林大学非常勤講師。

**瀧井レオナルド** Leonardo TAKIY テオルボ

日系ブラジル人三世。バーゼル・スコラ・カントルムで名手ホブキンソン・スミス氏のもとリユートを学び、国内外でリサイタルを開催。つのだたかしや波多野睦美とのデュオで好評を博す他、R.ヤコブス、R.アレッサンドリーニ等著名な音楽家の監修/指揮するアンサンブルや国内の主要なオーケストラと多数共演。佐藤裕希恵とのデュオ《ヴォクス・ポエティカ》では独自の世界観を追求し、CD『テオルボと描く肖像』はレコード芸術特選盤に選出。 **テオルボとは** 長いネックに張られた低音弦が特徴で「リユート」の仲間の中でも特に大型の楽器です。



**聖書の話** 当教会牧師の野村天路(たかみち)が、聖書から短くお話しします。